



## 加賀見 俊夫

副代表幹事  
多様な人材の活用委員会 委員長

オリエンタルランド 取締役会長兼CEO

**多**様な人材の活用委員会では、フリーターや女性、高齢者など多様化する働く人に焦点を当てて議論をしている。これからはより一層人が大切な社会になっていく。しかし、一方では、人に関する問題が増えているのも事実である。

特に最近、学校におけるいじめの問題に心を痛めている。人には、勉強が好きな人、スポーツが得意な人、音楽の才能がある人……、どんなことでも得手、不得手がある。ひとつでも自信があるものを見つけることができるはずなのに、試験の点数に偏重した教育や、行き過ぎた平等主義が、そういった自信を見失わせてしまっているのかもしれない。私たちの子どもの頃は、勉強でもスポーツでもいろいろな分野にヒーローがいたものである。自分に自信を持つと同時に、人を敬う心を忘れてほしくないと思う。

会社に入ると、高校を卒業した人の5割、大学を卒業した人の3割は3年以内に辞めてしまうと言われる。退職の理由には、自分のやりたい仕事とは違ったという理由が多いようであるが、自分の適性はそれほどすぐにはわからないと思う。いろいろな仕事を経験する中で、それを発掘してほしい。また、企業も、個人の得意分野を見つけてあげること

が必要であろう。個人の Will（自らの動機・価値観）、Can（能力）と Must（責任を担う役割）を広げて、マッチさせていくことが重要である。

社会には、まだまだ、良い学校を出て大きな会社で働くべきという価値観が根強く残っている。それぞれ自分に適した職業にチャレンジすべきだが、過去にそういった経験が少ないと、どうしても大学に入って大企業に就職しないと不安になる。特に親の価値観がそうになってしまっているのかもしれない。今のニートと呼ばれる人には、自分の価値観と親や他人の価値観とのギャップに悩んでいる人が多いのではないか。フリーターについても、個人の意識の問題として悪いと決め付ける人もいるが、本当に目的を持ち、自分の目指すゴールに向かって一生懸命な人もたくさんいると私は思っている。

多様な価値観を持つ個々人が、様々な仕事に就き、誇りを持って働けるような社会にしなければならない。そのためには、多様な人材の多様な働き方を活用できる企業にしていく必要がある。そうした視点から、「多様な人材の活用委員会」では、まさに多様な価値観を持つ委員が集まり、多様な議論を進めているのである。

## Contents

巻頭言 加賀見俊夫	多様な人材が活躍する社会を	001
特集 鼎談	「構造改革路線」は今後どうあるべきか	002
リレートーク 出原洋三	国際結婚で思うこと	010
委員長インタビュー	アジア委員会 檜田松瑩 日本のイノベーション戦略委員会 小島順彦	011
経済同友会最前線	日本のイノベーション戦略委員会提言 他	013
同友会スケッチ	2007年1月の記録と2007年3月の予定	023
新入会員紹介	2007年1月19日現在の入退会者	025
私の思い出写真館 大橋光夫	カリフォルニアでの2年間	026